

コベルコ建機

適用範囲		モデル名		SK30SR- 5	
		仕様		後方小旋回	
		適用号機		PW14-46519～	
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値	
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度		2550±25	
		ハイアイドルリング	min ⁻¹	1200±50	
		ローアイドルリング （冷却水温） （作動油温）	min ⁻¹ (°C) (°C)	(60～90) (50～60)	
		弁すき間		0.15～0.25	
		吸気弁 隙間	mm	0.15～0.25	
		排気弁 隙間 （測定条件）	mm (°C)	(冷態時)	
		圧縮圧力又は気筒 間圧縮圧力差	MPa	3.33～3.53	
		（冷却水温）	kgf/cm2 (°C)	34～36	
		（回転速度）	(rpm)	(250)	
燃料装置		噴射ノズルの燃料噴射 開始圧力	MPa	19.6	
			kgf/cm2	200	
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り [測定位置・条件] （中間を指で押す力） kgとNの両方で表記	mm	7～10	
			N・m	オルタネータプーリー～クランクプーリー間	
			kgf	〔 98 10 〕	
走行装置	走行性能	最高速度	ゴム	秒 18.9	
			鉄	秒 19.3	
	(クローラベルト)	履帯		[測定方法・条件]	
		ゴムベルト	張り (たわみ量) [測定方法・条件 (図面番号表示)]	mm	70～80 〔図-02〕
		鉄シュー	張り (たわみ量) [測定方法・条件 (図面番号表示)]	mm	115～130 〔図-02〕
		リンクピッチの伸び	[測定方法・条件]	mm	101.6 〔1リンクピン間距離〕
		履板取付けボルト 締付けトルク	[測定方法・条件]	N・m kg・m	—

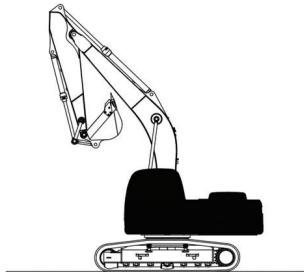
コベルコ建機

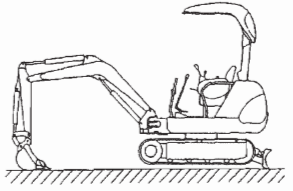
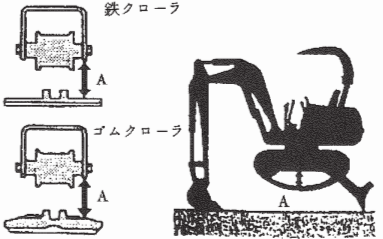
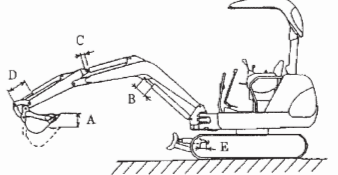
適用範囲		モデル名		SK30SR- 5	
		仕様		後方小旋回	
		適用号機		PW14-46519～	
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値	
作業装置	作業機自然降下	バケット先端位置 （測定時間） （作動油温） 作業装置姿勢 （図面番号表示）	mm (分) (°C)	150 (10) (50～60)	
				〔図-03〕	
	シリンダ自然伸縮	ブームシリンダ 作業装置姿勢 （図面番号表示）	mm	12	
		アームシリンダ 作業装置姿勢 （図面番号表示）	mm	〔図-03〕 5	
		バケットシリンダ 作業装置姿勢 （図面番号表示）	mm	〔図-03〕 3	
		ブレードシリンダ 作業装置姿勢 （図面番号表示） （測定時間） （作動油温）	mm (分) (°C)	〔図-03〕 3 (50～60)	
作業機速度	ブーム上げ 作業装置姿勢 （図面番号表示） アームシリンダ伸ばし 縮め 作業装置姿勢 （図面番号表示） バケットシリンダ伸ばし 縮め 作業装置姿勢 （図面番号表示） 性能測定条件 （荷重・設定モード等）		sec	2.8±0.4	
			sec	〔図-04〕 2.8±0.4	
			sec	1.6±0.4	
			sec	〔図-05〕 2.5±0.4	
			sec	1.5±0.4	
油圧装置	油圧回路設定圧力	主回路設定圧力	MPa	23.0	
		性能測定条件 （設定モード等）	kgf/cm2	235	
				〔 エンジン：ハイアイドル 作動油温：50℃ 〕	
				〔 無負荷 〕	
	動力伝達装置	旋回ベアリング取付けボルトの締付け	トルク	—	
動力伝達装置	旋回ベアリング取付けボルトの締付け	アウトレース取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	—	
		インナレース取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	115.0 11.7	
	旋回減速機取付けボルトの締付け	油圧モータ取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	115.0 11.7	
		旋回減速機取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	—	
	備考				

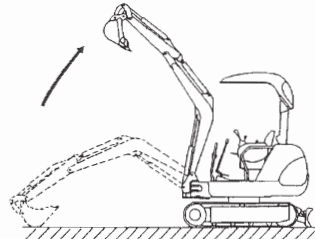
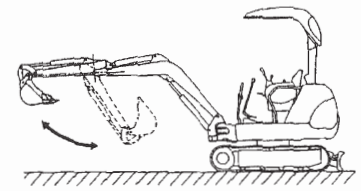
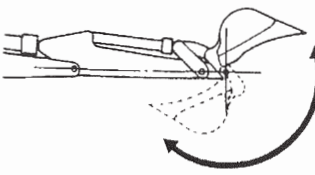
★印：新車基準値を表す。

コベルコ建機

適用範囲		モデル名	SK30SR-5	
		仕様	後方小旋回	
		適用号機	PW14-46519～	
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値
動力伝達装置	クレーン時の旋回速度	旋回 作業装置姿勢 (図面番号表示)	sec	13.1～14.5 [図-07]

項目	測定方法
旋回速度	・エンジン：ハイアイドル ・作動油温：50℃±5℃ ・作業モード；S又はMモード ・クッションストロークを除く作動時間 ・バケット空荷で平坦地 ・ブームシリンダ/アームシリンダ/バケットシリンダ最伸 方 法 旋回レバーをフルストロークを操作し旋回する。 一回転助走後の二回転に要する時間を測定し、 一回転当りの所要時間を算出する。  図-07

走行速度 (5 回転) ・エンジン 定格回転 ・作動油温 50℃ ～ 60℃ ・測定姿勢 ホウアタッチメントとドーザを使用し、車体を持ち上げる。 ・クローラシュを回転させ、2 回転目より数え、5 回転するまでに要する時間を測定する。 (等速回転後の測定)	 図-01
クローラの張り ・ホウアタッチメントとドーザを使用し、車体を持ち上げる。 クローラフレーム中央部におけるフレーム下面とクローラシュ上面とのすきまを測定する。 注) ゴムクローラの場合は、“M” マークの印された継目部を上部中央にして測定すること。	 図-02
シリンダ自然降下量 ブーム、アーム、バケット、ドーザ、バスケット先端 ・エンジン 停止 ・作動油温 50℃ ～ 60℃ ・測定姿勢 ドーザ、アームシリンダは最縮小、バケットシリンダは最伸長とし、ブームフットピンとバケットピンの高さを同一にする。 ・測定姿勢を 10 分間保ち、その間に变化したロッドの長さ、及びバケット先端での変化量を測定する。	 図-03

ブームシリンダ速度 ・エンジン 定格回転 ・作動油温 50℃ ～ 60℃ ・測定姿勢 アームシリンダを最縮小、バケットシリンダは最伸長とする。ドーザを設地させる。 ・バケットの設置位置 (最高上げ位置) から、最高上げ位置 (地上設置位置) までの所要時間を測定する。(クッション作動時間は含まない)	 図-04
アームシリンダ速度 ・エンジン 定格回転 ・作動油温 50℃ ～ 60℃ ・測定姿勢 アームシリンダを最縮小、バケットシリンダは最伸長とし、アームを水平にする。ドーザを設地させる。 ・アームシリンダの最伸長時 (最縮小時) から最縮小時 (最伸長時) までの時間を測定する。	 図-05
バケットシリンダ速度 ・エンジン 定格運転 ・作動油温 50℃ ～ 60℃ ・測定姿勢 アームシリンダを最縮小にしてアームを水平にする。ドーザを設地させる。 ・バケットシリンダの最伸長時 (最縮小時) から最縮小時 (最伸長時) までの時間を測定する。	 図-06